

今回紹介する団体：河南町河南西部土地改良区、水土里ネット大阪

## 取組概要

内容： 水土里情報利活用促進事業で整備した地図情報を活用し、施設管理台帳や農地管理台帳を整理。耕作者や体験研修農園利用者が給水栓や制水弁の位置等を分かるように可視化した。

経緯： 本改良区は、受益面積63ha、職員、臨時職員各1名で農業用排水施設を管理している。

本地区内では、農事組合法人が管理する農地の一部を「体験研修農園」として市民に貸し出しをしている。研修農園（1者あたり10a以上の農地を貸与）の利用者は必要に応じて各ほ場に設置している給水栓を操作してかんがいすることになるが、特に農業参入企業や複数のほ場を借り受ける者に対しては、給水栓や給水栓が故障した際の制水弁の位置を各ほ場で説明していた。

また、研修農園の利用者は水路の清掃や草刈り等も行うが、「作業対象範囲が分からない」といった問合せも多く、対応できる職員が1名しかいないことから、回答までに時間を要することがあった。

このため、改良区で管理する地区内の給水栓等の施設位置、水路清掃の範囲、農地の利用状況等を可視化し、急な問合せがあった場合に臨時職員でも対応可能とする方法を確立するとともに、誰にでも分かり易く周知することとした。

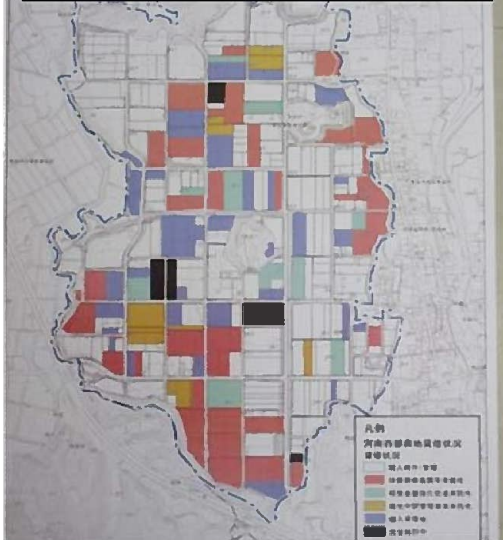
給水栓等の施設位置図



草刈り等の班割り図



## 地区内貸借状況一覧表



## 体験研修農園



## 参入企業のイチゴハウス



## 取組による効果

- 給水栓や制水弁の位置、マンホールの位置を現地の写真を含めて可視化したことにより、施設の位置を現地で説明する時間が省略できた。
- 施設位置の他、農地の耕作者情報等も整理したことにより、これまで変更がある度に手書きで色分けをしていた農地賃借状況も、簡単・鮮明に図面を作成することが可能となった。
- 体験研修が可能な農地及び貸し出し可能な農地を常に把握できることから、新規就農希望者や企業からの問合せに対して、すぐに希望の農地を紹介できる体制が整い、新規就農支援等にも活用されている。

## 今後の活用予定

- 機能診断結果を登録し、適時・適切な施設の保全管理に活用
- 中間管理機構関連事業を導入する際、農家の意向把握に活用
- 団地化された農地の賃借を希望する企業に対して、賃借可能な農地の説明等に活用
- 企業進出に備えて、省力化・自動化・A I 化等スマート農業の取組への活用

## GISシステムのバージョン情報

GISエンジン：ArcGIS 10 viewer

## ■お問い合わせ先

大阪府土地改良事業団体連合会 農地空間技術・情報センター 06-6232-8365